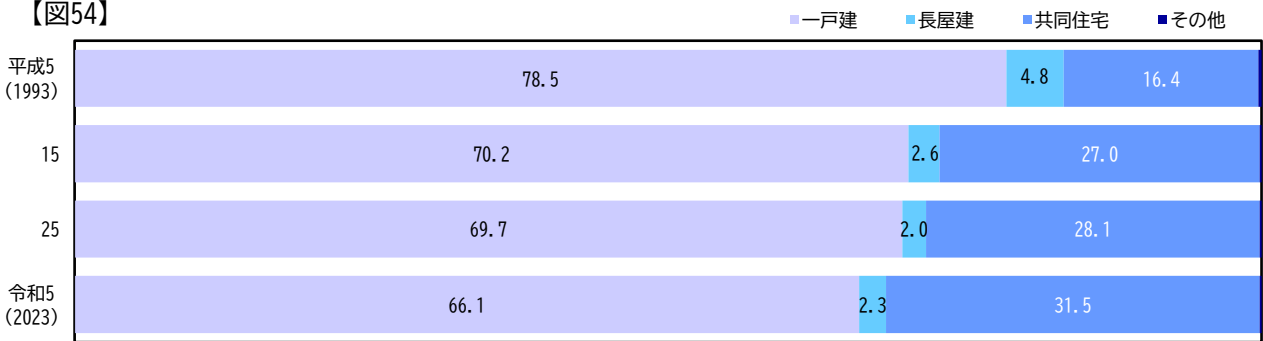


# 生活・環境

## 住宅の建て方別割合の推移

【図54】

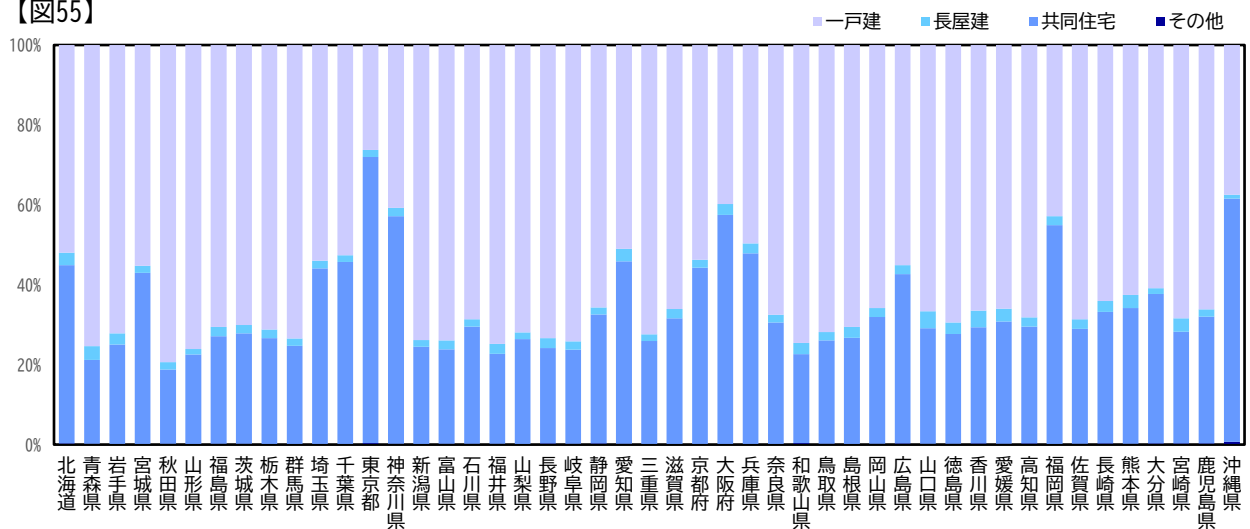


※「その他」の数値の表記は省略しています。

「住宅・土地統計調査」 総務省統計局

## 都道府県別の住宅の建て方別割合

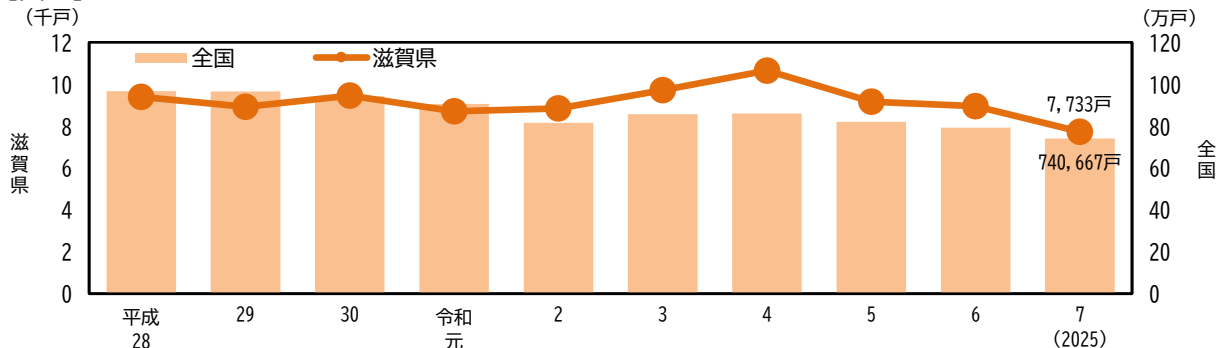
【図55】



令和5年「住宅・土地統計調査」 総務省統計局

## 新設住宅着工戸数の推移

【図56】



「建築着工統計調査」 国土交通省

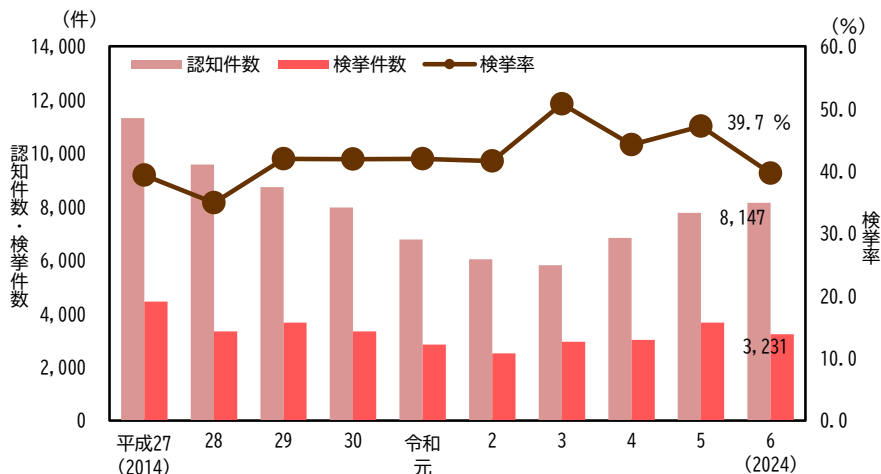
都道府県別の住宅の建て方別割合で、一戸建の割合が最も高いのは秋田県で79.4%、長屋建は山口県で4.3%、共同住宅は東京都で71.6%であった。【図55】

令和7年に着工された滋賀県の新設住宅の利用関係別の内訳は、持家が3,405戸、貸家が2,732戸、給与住宅が86戸、分譲住宅が1,510戸であった。

給与住宅とは、会社、官公署、学校等がその社員、職員、教員等を居住させる目的で建築するものである。【図56】

## ■犯罪件数

【図57】 犯罪の認知・検挙件数（刑法犯）



「滋賀の犯罪」 県警察本部

## くらしの数字

人口千人当たり  
警察官数  
1.68人

全国46位  
(令和6年)

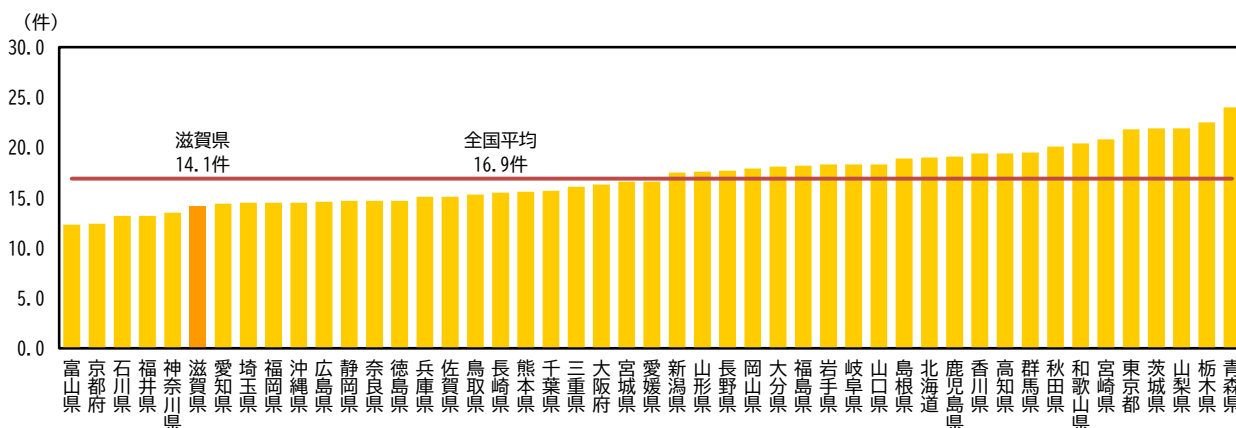
全国1位 東京都 3.08人  
 全国2位 京都府 2.62人  
 全国3位 和歌山県 2.48人  
 全国45位 宮城県 1.69人  
 全国47位 埼玉県 1.60人

全国平均 2.10人

「統計でみる都道府県のすがた2026」

## ■建物火災出火件数

【図58】 (人口10万人当たり)



「統計でみる都道府県のすがた 2026」 総務省統計局 (令和5年度)

## くらしの数字

震度1以上を観測した地震  
31回  
(令和6年)

「滋賀県の地震」  
彦根地方気象台

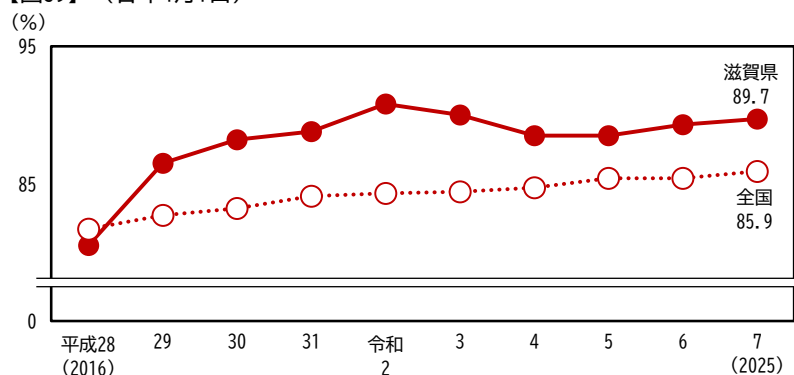
## くらしの数字

救急活動  
『出動件数』75,892件  
『搬送人員』69,969人  
(令和6年)

「令和7年版 消防白書」  
総務省消防庁

## ■自主防災組織活動カバー率\*の推移

【図59】 (各年4月1日)



\* 自主防災組織活動カバー率  
 = 自主防災組織がその活動範囲としている地域の世帯数 ÷ 県内世帯数  
 「消防白書」 総務省消防庁

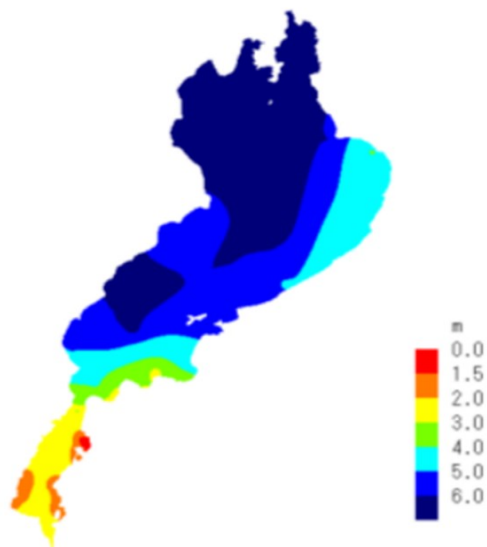
約60年前の昭和40年は検挙率が95.4%であったが、以後緩やかに低下傾向をたどり  
平成13年には18.0%となった。【図57】

令和7年の自主防災組織活動カバー率の滋賀県の全国順位は26位。  
全国1位は兵庫県で98.0%。同県は過去9年連続で全国1位。【図59】

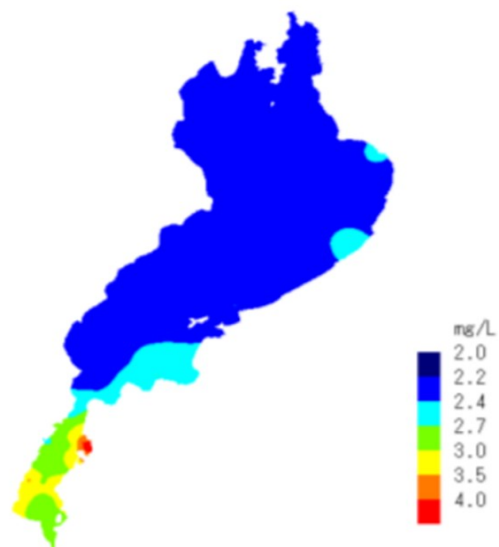
## 琵琶湖の水質状況

透明度、COD、全窒素、全りん の平面分布(令和6年度の年度平均値)

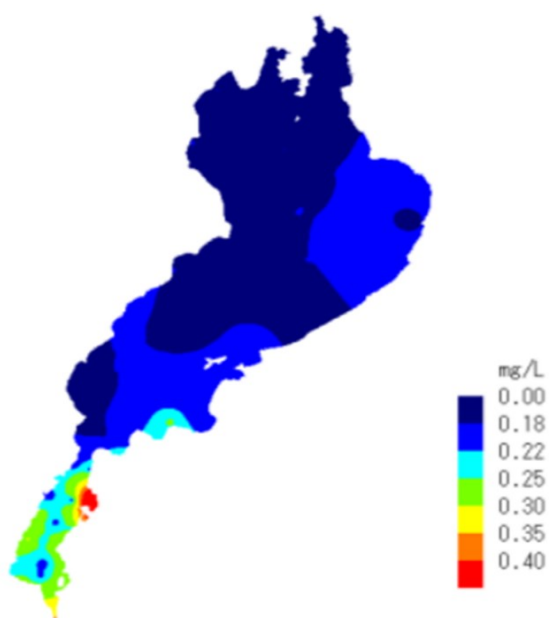
【図60】 透明度



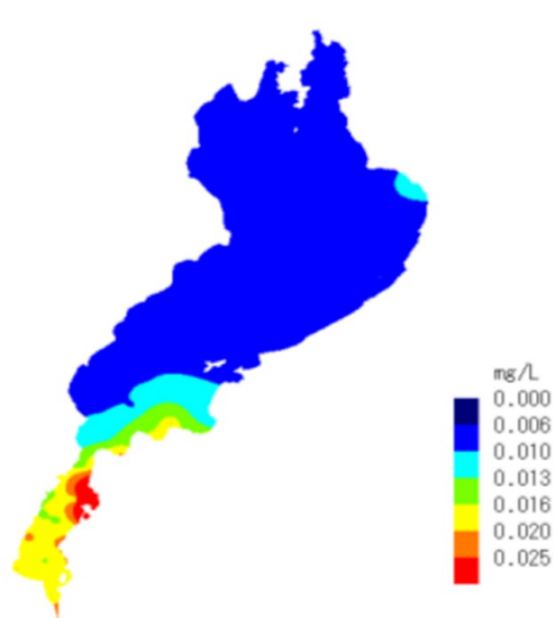
【図61】 COD(化学的酸素要求量)



【図62】 全窒素



【図63】 全りん



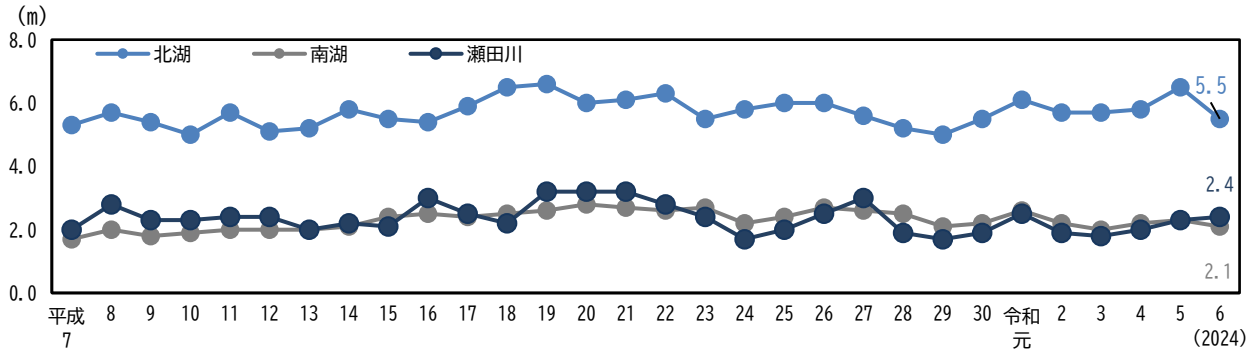
「滋賀の環境2025」 県環境政策課

琵琶湖水質の平面分布をみると、北湖中央部から北西部は他の水域に比べ、透明度が高く、COD(化学的酸素要求量)、全窒素、全りんの値が低くなっている。

一方、南湖(特に東部)では地形や人間活動などの影響により、透明度が低く、COD、全窒素、全りんの値が高くなっている。【図60】 【図61】 【図62】 【図63】

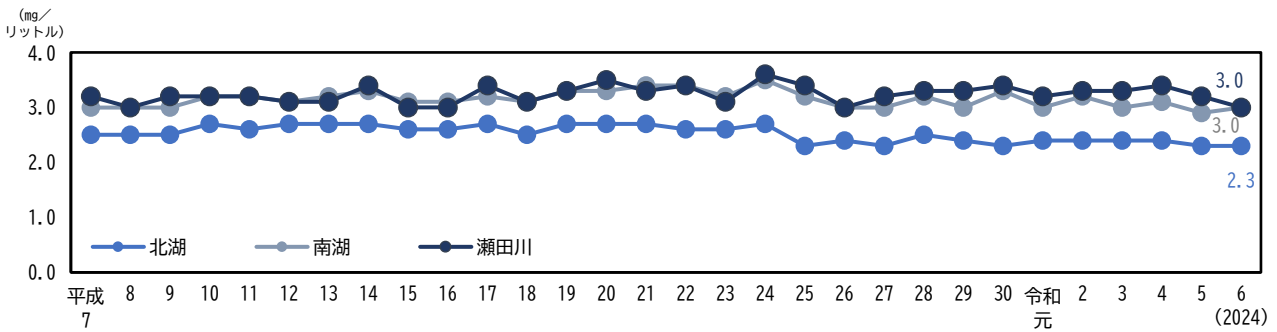
# 透明度、COD（化学的酸素要求量）、全窒素、全りん の経年変化

【図64】 透明度(平均値)



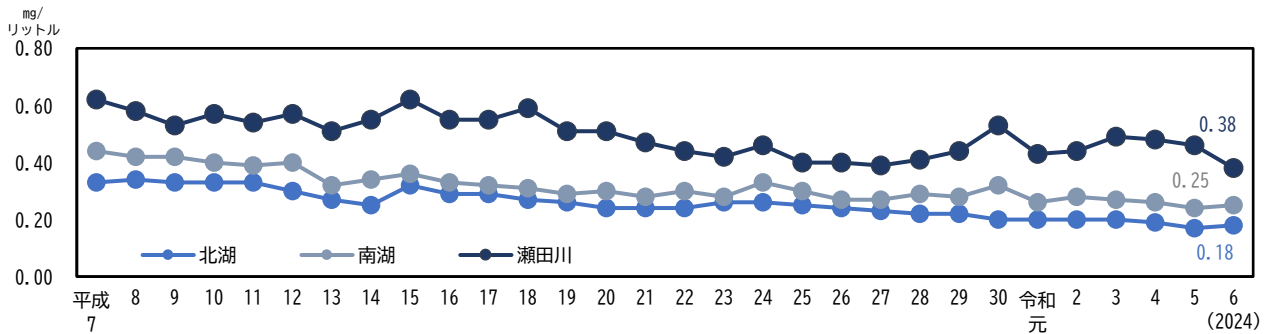
「滋賀の環境2025」 県環境政策課

【図65】 COD(化学的酸素要求量)(平均値)



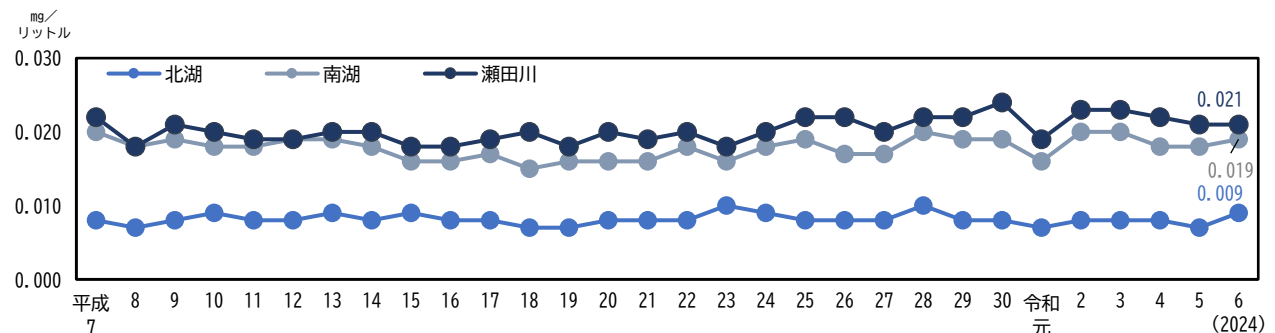
「滋賀の環境2025」 県環境政策課

【図66】 全窒素(平均値)



「滋賀の環境2025」 県環境政策課

【図67】 全りん(平均値)



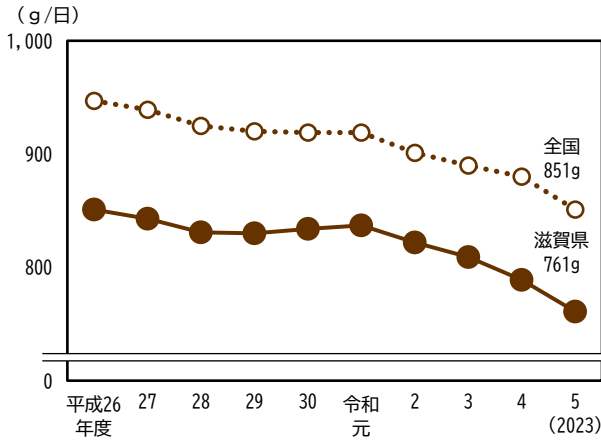
「滋賀の環境2025」 県環境政策課

透明度は、真っ白い透明度板を沈め、どの深さまで透明度板が見えるかで測定する。  
 グラフでは平成19年の北湖6.6メートルが最高値。【図64】

CODは、水中の有機物と酸化剤を反応させて汚れの物質の量を図った値。  
 5mg/リットルぐらいまでが魚が棲みやすいといわれている。【図65】

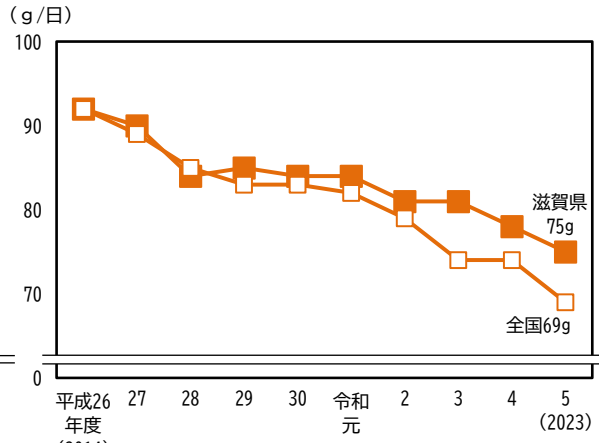
## ■ごみ排出量と最終処分量

【図68】1人1日当たりごみ排出量の推移



県循環社会推進課  
「一般廃棄物処理実態調査結果」 環境省

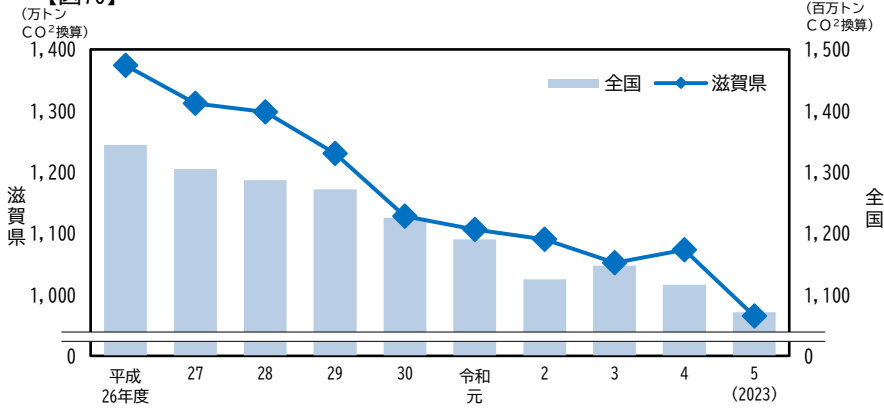
【図69】1人1日当たり最終処分量の推移



県循環社会推進課  
「一般廃棄物処理実態調査結果」 環境省

## ■温室効果ガス総排出量の推移

【図70】



※ 各年度の温室効果ガス総排出量については、各温室効果ガスの排出量に各ガスの地球温暖化係数を乗じ、それらを合算している  
「2023年度(令和5年度)の温室効果ガス排出・吸収量(確報値)」 環境省  
「滋賀県域からの温室効果ガス排出量(2023年度)の実績」 県CO<sub>2</sub>ネットゼロ推進課

### くらしの数字

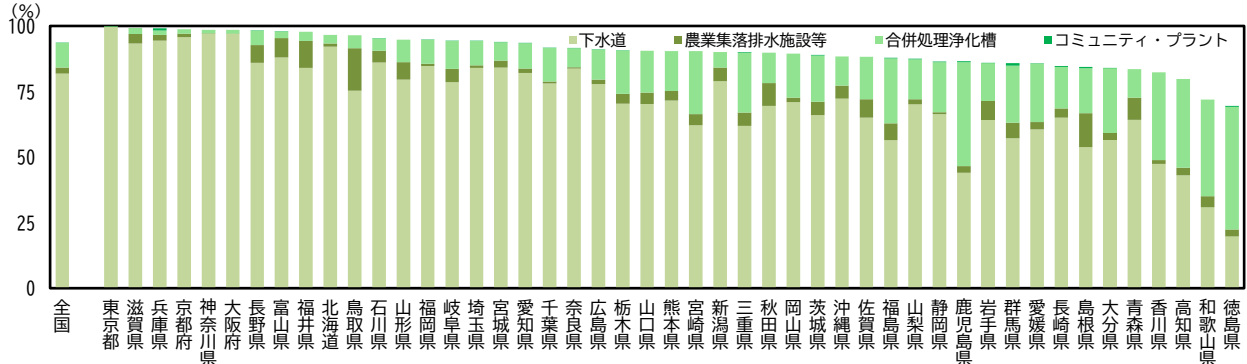
一人当たり  
公園面積

9.4㎡/人  
(全国平均 12.7㎡/人)

「都道府県別一人当たり  
都市公園等整備現況」  
国土交通省  
(令和5年度末)

## ■汚水処理人口普及率\*

【図71】



\* 国土交通省、農林水産省、環境省が各々所管する下水道、農業集落排水施設等、浄化槽等の汚水処理施設の処理人口を調査し、総人口に対する割合で表した統一的な指標

国土交通省、農林水産省、環境省 (令和6年度末)

滋賀県の令和5年度(2023)の1人1日当たりごみ排出量は少ない順で全国2位。

市町別にみると、最も少ないのは愛荘町で624グラム。【図68】

最終処分量とは、ごみとして排出されたもののうち、

焼却、破碎、溶融、脱水、選別などを経ても、再利用できなかった廃棄物の量。

滋賀県の令和5年度のごみ総排出量約39万トンのうち最終処分量は3万9千トン。【図69】

滋賀県の令和6年度末の汚水処理人口普及率は、99.3%。内訳としては、下水道93.4%、農業集落排水施設等3.6%、合併処理浄化槽2.3%、コミュニティ・プラント0.0%。【図71】